

2015年03月17日

《春のこども劇場2015》「やまなし・どんぐりと山猫」公演のお知らせ

赤城山も日一日と暖かくなっています。

小川のせせらぎは水流を増し、林の鳥たちも賑やかにさえずり始めました。

群馬中芸は今年も恒例のスタジオ公演《春のこども劇場2015》を来る五月の連休中開催いたします。

昨年の秋に新作舞台として宮沢賢治原作「どんぐりと山猫」を上演いたしました。

その「どんぐりと山猫」に新たな小作品の影絵「やまなし」を加えて、一つの詩の世界として舞台化できるだろうかと試行錯誤を重ねながら、目下製作しております。

賢治の原文を舞台化するシリーズ『イーハトーヴものがたりパート6 やまなし／どんぐりと山猫』

新緑の萌える五月の赤城山へどうぞお出かけください。

みなさまのご来場を心よりお待ちしております。

2015年 3月

劇団群馬中芸

やまねこからおかしなはがきが届いた一郎少年は、
谷川の風の中へ出かけてゆきます。
こどもの瞳にうつる風景がみたくて私もついて行きます。
一緒にいかがですか。
当劇場にてお待ちしております。

劇団員 拝

- とき 2015年 5月4日(祝)、5日(祝)
- ところ あかぎ未来スタジオ
- 開演 ①午前11時 ②午後2時 (両日共)
- 料金 こども 1,000円(3才から高校生まで) おとな 2,000円

お問合せは劇団 ☎027-288-2700 まで、またはメール(HP 画面より)にて
劇団ホームページの上演作品ページで作品紹介しております。

2015年05月18日

春の劇場「やまなし・どんぐりと山猫」公演

春の劇場は5月4日、5日に行なわれ、二日間の公演日程を無事終了することができました。

スタジオの庭に吊した鯉のぼりが、早朝の強風でもつれてからまっていたり、天候不順の空模様が心配でしたが、かろうじて雨に降られつづくこともなく、晴れ間には立夏の候らしく気温もあがった二日間でした。

今年も大勢の人々が劇をご覧くださいました。

また、公演の受け付けや駐車場、食堂や売店など、いつも協力して下さるいなほ保育園父母のみなさんをはじめ、お手伝いくださったみなさんに大変お世話になりました。感謝の念につきます。

おかげさまで今年の劇団五月公演が無事開催できましたことを、この場を借りて御礼申し上げます。

未来スタジオにご来場くださったみなさま、この度も誠にありがとうございました。

春の劇場公演での様子です。





木のおもちゃとかざぐるま作りが人気だったロビー
甘楽町の柏葉さん夫妻が担当してくれました

観劇後にホールから出てくるみなさんは、何かを思い
巡らす表情のひとや、あれはどういう意味だろうと考
えているひとが多かったように感じます。

こどもたちに感想を聞くと、おもしろかったと感じるところもたくさんあったようで、ほっとしました。

最初から最後まで子どもがじっと集中してみていたというお父さん、お母さん。

暗闇や人形が恐くてホールから飛び出してきても、また入ろうか入るまいかするこどもたち。

おとなはそんなこどものようすを見守っていました。

童話の原文のままのことばや内容が低年齢の子どもには難しいのではないかというご意見もいただきました。

イーハトーヴォものがたりパート6と銘打ち、宮沢賢治の童話から「やまなし」と「どんぐりと山猫」を取り上げて
構成した新作舞台は、昨年秋のどんぐりと山猫の製作に続く長い製作期間でした。

やまなしは、小学校の国語教科書に載り、いまの子どもたちに読まれています。劇団でもこれまでに何度か
舞台化してきた作品です。

賢治童話の中でも、小さな生きもののみつめる自然の風景が、一遍の詩のように美しくつづられ、幻想的な余
韻の残るお話ですので、多くの人に愛読されつづけていると思います。

この度は、「小さな谷川の底を写した二枚の青い幻燈です」という童話の文章をもとに、影絵の手法で舞台化す
ることを試みました。

やまなしからどんぐりと山猫へとつづくお芝居に共通するのは、どちらも語り手が物語の進行役になっていると
いうことです。

どんぐりと山猫に登場する一郎という少年の目でやまなしの世界が語られ、そして、その成長した姿かもしれない
青年が、どんぐりと山猫をかつて自分が体験したことを思い返して語っているという構造にしています。

また、童話を台本に構成する段階で、台本作者・演出の中村欽一さんは、今は使われない用語に補足説明な
どを加えたほうがいいのか思案しましたが、やはり原文のまま舞台化し、語り演じるということを大切にしました。

読み手のこころのなかに、十人十色それぞれに想像の世界が広がる宮沢賢治の文学。

わたしたち劇団は一つの表現として視覚的に舞台化いたしました。

劇を観た人が、さまざまに感じ、想起し、日常の風景や体験の中に結ばれたり、賢治文学に再訪したり、新たに
触れるきっかけの一つになるならば、わたしたちは幸いに思うばかりです。

これからも多くの人びとに舞台でお会いできるよう、努めてまいります。

2015年06月05日

田島輝男さんを偲んで

劇団の古くからの仲間で、ともに歩んできた友人の田島輝男さんが、今年1月16日に64歳で亡くなりました。

田島さんは埼玉県で教員を勤め、自然や音楽に親しむことを教育の根幹にして、大勢の子どもたちへ親愛を注いでこられました。

のびやかな歌声で音楽リズムの歌をうたう姿を、誰もが親しんできました。

定年前に教師の職を退いたあとは、交友のある保育園の行事や‘音楽教育の会’のモンゴルへの旅行など、世界中の民族音楽や民謡、歴史や伝統文化などへの造詣の深さを生かした活動を続け、好奇心のままに暮らしておられました。

「吹き矢」という協会認定されているスポーツでは、大会参加に熱意をもって取り組み、一つの生き方にまでつながる吹き矢の神髄について、趣きのある豊かな考えを私たちにも楽しく語ってくれました。

劇団との関わりは古く、記念公演や合同企画公演の舞台には毎回出演されたり、新作劇のいくつかで音楽を作曲して下さったり、田島さんの経験と知識は劇団に欠かせないものになっていました。

「イーハトーヴォものがたりパート3 ありとぎのこ・注文の多い料理店」(1999年)の音楽は、あたたかみのあるオカリナの主旋律がいまも思い起こされます。

近年の群馬中芸の公演では、ロビーでのお楽しみとしてすっかり定着していた手作り遊びのコーナーを、受け持っていました。

そこでは、だれでも簡単に作れる笛や音の出るおもちゃ、手遊びの紙細工など、子どもから大人まで夢中になるあそびを毎回紹介してくれました。

毎度頭をひねってアイデアを考案し、こんなものを作りましたよといいながら、手作りおもちゃの作り方を実演してくれるのを、私たちも楽しみにしていました。



こども劇場で、子どもたちと一緒にの田島さん

一昨年頃から体調が悪化し、入退院が続く中、劇団公演に行けそうもないよと、電話口でお聞きすることが多くなり、大柄な体型だった田島さんは内臓の機能不全によって、惜しくも逝ってしまいました。

丸山亜季さんや久保田穰さんの続けざまの訃報に追われるうちに、親交が深かった田島さんの訃報を受け止める心の余裕のようなものが作れずにいました。

今年の5月公演では、ご家族のみなさんがスタジオへおいでくださいました。

また、田島さんが収集していた世界中のめずらしい楽器を、妹さんたちから劇団へ寄贈を受けました。

一つ一つ大事そうに扱いながら、これはね、こう弾くんだよと楽器を鳴らせてくれるご本人がいないのが、残念です。

今でも田島さんが、そのおおらかな声と何か面白いもの(楽器だったり、おいしい食べ物だったり)を携えて、ひょっこりスタジオに現れるような気がしています。



モンゴルのフレッシュチーズを仕込み中の田島さん



こども劇場で男の子と

モンゴルの草原の風の中におられるだろう田島輝男さん、つねに劇団とともにあり、支えてくださいました。長い間ありがとうございました。



田島さんの楽器の数々

2015年08月22日

秋のこども劇場のおしらせ

たいへんご無沙汰しております。久しぶりに更新いたします。

八月の猛暑もようやくおさまり、涼やかな虫の音が街路から響いてくる頃となりました。
みなさまいかがお過ごしでしょうか。

劇団の本拠地・あかぎ未来スタジオ公演の秋の日程が決まりましたので、劇団ホームページと当ブログにてお知らせいたします。

演目は、今回で数度目の再演となる「パナンペ ペナンペむかしがたり」です。

口伝えられてきたアイヌの昔話から、やさしくおらかなおじいさん、愉快で性急なおじいさん、性格の異なる二人のおじいさんがくり広げる対照的なものがたりを、俳優たちが大型絵本をめくりながら語り演じるお芝居です。
丸山亜季先生作曲による音楽は、現在も多くのみなさんに歌い継がれています。

劇の後にはみなさんと一緒に、どなたでも簡単に体を動かすことのできるアイヌのバツタ踊りや棒の踊りを踊るおたのしみタイムも予定しております。

秋の連休前の土曜日、9月19日に行います。

ご都合が合いましたら、どうぞみなさまお誘い合わせてぜひ秋の深まりゆく赤城山へ、お出掛けください。
また舞台でお目にかかれましたら幸いです。

劇団員一同

2015年09月27日

9月19日 秋のこども劇場「パナンペ・ペナンペむかしがたり」公演 新安保法制の成立

9月の中旬に続いた台風や秋雨前線の影響による長雨は、隣県の栃木や茨城・福島・宮城県の各地に水害が起きてしまいました。

そして、安倍政権による「平和安全法制」という新法が、国会前や全国各地で多くの国民が不信・不安・疑惑・怒りのなかで「戦争法案」反対のデモ行動を行い続けている中、その民意を無視するかたちで9月19日の早朝、自民・公明・次世代の党・新党改革・日本を元気にする会の賛成多数によって可決成立しました。
安倍首相は民主主義のルールに従って、審議をつくしたから採決したと公言しました。

その日は秋の大型連休の始まる土曜日、朝から久しぶりに秋晴れの青空がひろがりました。

長いトンネルを抜けて差し込んだ陽の光のようであり、また、自衛隊が他国間の戦争や紛争に参戦することを非人道と思う市民にとって、忸怩たる思いで見上げる皮肉なほどの青空でもありました。

秋のこども劇場「パナンペ・ペナンペむかしがたり」公演に早朝から駆けつけてくださった子どもをもつお母さんたちの表情にも、法案が成立したことに憤りを感じている人も多くいらっしゃいました。

日常生活に追われる一国民、一市民である私たちの多くが、民主主義とは何か、そのあり方を考えるきっかけにもなった『2015年安保』。

わたしたちの望む世の中の方向を、日本政府に意思表示する機会である次の国政選挙で、これからの時代を生きるこどもたちのために投票権を生かしていきましょう。

さて、絵本芝居「パナンペ・ペナンペむかしがたり」は、群馬中芸が1989年に創作した「パナンペ・ペナンペ昔話」という舞台の大筋を元に、語りと絵めくりの手法で俳優たちが演じる比較的短いお芝居です。

すでに度々上演している作品ですが、この劇の中で歌われる「アイヌモシリ 自由の地 われらウタリ(仲間)とともにあり」という詩のことばなど、今回あらためてスタジオ公演で上演することによって、いまの日本社会で起きていることを重ねて見ている観客のみなさんの反応を、どことなく感じさせられました。

私たちはほんとうに自由な存在なのだろうか？

たいへんな時こそ、真に思いあえる仲間がいるだろうか？

アイヌの昔話の、先住民の知恵に富むその奥行きの高さにあらためて気づかされます。

秋のこども劇場は、この度も大勢のみなさんが劇場に足を運んでくださいました。

未来スタジオが劇場としての顔をとれどす、みなさんとの貴重なひと時でした。

私たち劇団員は精一杯務めるだけでしたが、元の戯曲のもつ面白さや誇らしい劇中歌に支えられて、舞台を上演させていただきました。



劇中の踊りをこどもたちと

いつもながら、いなほ保育園父母、職員のみなさんのご協力をいただき、食堂ではお父さんたちによる手打ちうどん、お母さんたちが彩り美しく揚げるおいしい天ぷらなどが大人気でした。

そして、ロビーでは太田市の造形作家・木戸健房さんによるきりえと面の美術展や、‘みねさん’の紙遊び、‘いしばし’のおもしろ自然石ほか色々の展示台など、こどもたちは夢中になっていました。



ロビーの様子①「きりえと面展」



ロビーの様子②自然石の展示コーナー



ロビーの様子③

いつものささやかなスタジオ公演ですが、人々のあたたかい気持ち交流しあう場になっていました。

おいでくださったみなさん、この度も誠にありがとうございました。

小集団ですので、至らないところが多々ありましたことを反省しております。

これからもまた新たな思いで舞台を上演してまいります。

➡ お芝居の上演台本を販売しています！

●「パナンペ・ペナンペ昔話」 作／中村欽一 1989年初演。

劇団ではこれまでの代表作のいくつかの上演台本を、読み物として手製発行、販売しています。

詳しくは、劇団までお問い合わせください。

TEL 027-288-2700 FAX 027-288-2792

2016年04月15日

ダンス公演レポートと劇団5月公演のお知らせ

あかぎ未来スタジオで4月2日(土)、3日(日)の二日間、元気なダンスパフォーマンスが催されました。

主催はパフォーマンスカンパニー『KPOハートBANK』のおかのともこさん。

ちょうどよい大きさの会場を探していて、未来スタジオを紹介する劇団ホームページを見つけてくれたのだそうです。

おかのさんから会場の問合せを受けたのは今年の夏。

それから度々未来スタジオに来場され、会場下見や施設利用の打合せなどを重ね、準備をすすめてこられました。

出演するみなさんたちの都合が合う時間となると、学校や仕事が終わった後の週末など。

未来スタジオでのリハーサルは日も暮れた頃、闇深くなる赤城山に市街地からよくぞおいでになるという時間帯。

スタジオ内に事務所のある劇団員たちは、それまで閑散としていたスタジオが突如賑やかな笑い声と人々の熱気で活気づいていく夜のレッスン風景を、新鮮な気持ちで見学させていただきました。

会場貸しとして外部団体の練習に立ち合う管理人役は劇団の秋山でした。

そして、使い放題に電気を使ってしまうと、年間の電気料がうなぎ登りに上がってしまうというスタジオ事情があり、照明の鈴木が頭を悩ませながら、可能な限り十分に照明・音響機材が使用出来るように調整し、機材を配置しました。

おかのさんとスタッフの方には、制約と注文の多い当劇場の使用条件にお付き合いいただくことになり、不都合なことも多かったろうと思いますが、快く受け入れていただき、ありがたいことでした。

スタッフと50人近い出演者のみなさん、支える家族のみなさん方が、おかのさんのリーダーシップのもと、昨年12月から今年にかけての数回のリハーサル、そして二日間の公演の駐車場誘導や受付、客席案内など、小さなこどもからおとなまで、チームワークよくダンス公演を作り上げていました。

以下は、本番当日に許可をいただいて撮影した、ダンス公演の様子です。





次々と繰り出されるストリートダンス！

のりのいい音楽がホールに大音響でひびくのも初めてのことです！

小さな子どもからおとなまで、一つの物語を科白でつないでいく演劇的なところもあって、演じて歌って踊ってという盛りだくさんの舞台表現は、とてもたのしいパフォーマンスでした。二部になると踊りはさらにヒートアップし、会場の熱気も最高潮に。

さいごは爽やかに出演者総勢でのエンディングでした。



ラストの回では、おかのさんのお仲間シンガーソングライターの角田磨知さんという歌手さんが、パワフルで魂のこもった弾き語りの歌を歌い、聞く人を魅了しました。

磨知さんは未来スタジオのある富士見町内にお住まいで、子どもの頃群馬中芸の芝居をみた思い出がありますとお聞きして、古い劇団員は当時の記憶を呼び覚まされました。



下見の段階から、本番当日、さいごの片付けまで、おかのさんと舞台監督の中西さんの采配は滞ることなく進行し、立ち合う側の劇団員も気持ちの良い関係を持ち続けることが出来ました。

表現の場として未来スタジオを使用してくれた、明るく朗らかで飾らない人柄のおかのともこさんと大勢の仲間みなさんに会うことが出来て、嬉しく楽しい体験でした。

そして、主催団体はどのように多種多様でも、未来スタジオに大勢の人々が集い、舞台表現が行なわれてこそ、小劇場としての存在意義が浮き立ち、劇場が息を吹き返して活気づくということを、あらためて実感したこの度の機会でした。

《5月公演のお知らせ》

劇団ブログも長く更新出来ないまま新年度になってしまいました。

今年の5月公演のお知らせをさせていただきます。

昨年に続いて宮沢賢治童話の舞台「やまなし・どんぐりと山猫」を5月5日に上演いたします。

このお芝居は各地の保育園、幼稚園や小・中学校などで上演し、たくさんの子どもたちとの出会いを得ています。素朴なつくりの影絵「やまなし」は、昔の幻灯のような雰囲気、子どもたちは引き込まれ、とてもよく観てくれています。

「どんぐりと山猫」のまかふしぎなどんぐり裁判の様子も、真剣、ときには楽しそうに、その行方を見届けてくれているようです。

未来スタジオでは三度目の上演となりますが、初めての方も、また何度もご覧頂いている方も、どうぞご都合がよろしければ、赤城山へお出かけいただければ幸いです。

ご来場心よりお待ちしております。

2016年4月 劇団員一同

群馬中芸 春のこども劇場2016

宮沢賢治の原文を語り演じるシリーズ
イーハトーヴオものがたり パート6

やまなし・どんぐりと山猫

台本構成・演出／中村欽一 音楽／中村びわ

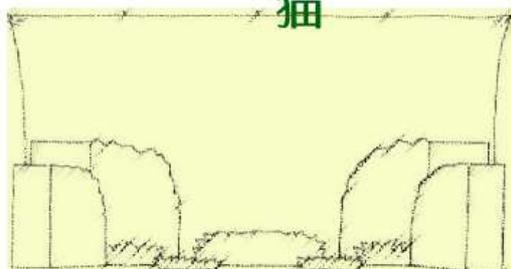
5月5日（こどもの日）

ところ あかぎ未来スタジオ

開演 午前十一時三〇分

料金 おとな二千円、こども千円（3才〜高校生）

戦争が続いた時代に生きた宮沢賢治が想い描いた理想郷——イーハトーヴオ
そこは争いのない平和で安寧に誰もが楽しく暮らせるところ



お問合せ・お申込み 劇団 群馬中芸

TEL 027-288-2700 FAX 288-2792
371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山 626-498

2016年08月29日

フラメンコと舞踊公演のお知らせ

来る9月30日(金)にさいたま市北区のプラザノースで、埼玉県桶川市のいなほ保育園とけやき学童、その保育園で生まれ育ったフラメンコ舞踊家の北原志穂さんが、日本の地域社会で活躍する文化人と一緒にステージに立つというお知らせが入りました。

北原志穂さんは2010年4月に、あかぎ未来スタジオで素晴らしいフラメンコ舞踊を披露してくださいました。

この度の公演は、詩人のアーサー・ビナードさんや、民族文化の担い手である国籍も多様な文化人のみなさん方との共演による公演です。期待度は高まります。

取り急ぎ公演チラシを掲示いたします。

民族 *~part 1~*

この世とは人間が作りだした産物の世界である。
国境なんてどこにあるの？見えるの？
私たちだって風のようにどこへでも吹きぬけることができる。
自然の中からすべては生まれ地球という惑星の中に共存している。
親い、奪い、殺し合うのはやめよう。
共存が万物の恵である。
さあ、創りだそう私たちの命の輝きを。

～ 出演者 (順不同) ～

けやき学童生	大野利可(篠笛・籠管)
いなほ国児	李 政美(歌)
北原志穂(フラメンコ)	アーサー・ビナード(詩人)
	飯田ワンナシリン(タイ舞踊)
	平野麻子(民舞)
	平野浩人(民舞)

2016. 9. 30 (金)
プラザノース

pm6:00 開場 pm6:30 開演
S 5,000円 A 4,500円 子供 3,000円
お問い合わせ：公演実行委員会



埼玉県さいたま市北区宮原町1-852-1 TEL: 048-653-9255 「加茂宮駅」下車 徒歩約5分 「土呂駅」下車 徒歩約15分